《中学生集会に参加して》

豊中中学校　一年　N

ぼくは、この会に初めて参加しました。

午前中全体会で、同じ学習会のT君が、自分のことを考えて発表していました。ぼくは、それを見ていてすごいと思いました。みんなの前で発表していたからです。

昼からは、グループごとに話し合いをしました。ぼくは、いつ、どこで、だれから聞いたかを話し合いました。ぼくは、小学校のころ親から聞いたということを発表しました。みんな発表をしていました。

来年もみんなの意見を聞きたいと思う。

徳島での差別の勉強

豊中中学校　一年　S

四日の日に徳島であった中学生集会の中で、私が一番心に残ったのは分散会です。

私は、分散会で自分から発表できず、当てられた時しか発表することができませんでした。でも、当てられた時、自分の思ったことをちゃんと言えてよかったと思っています。だけど、友達と少ししゃべってしまったのが悪かったと思いました。

全体会ではたくさんの人が、みんなの前で自分の思ったことを、自分から手を上げて言えていました。私は、それを見てすごいなーと思いました。それは私だったら、たくさんの人の前で発表できないと思ったからです。

もし、来年も徳島の中学生集会に出れるとしたら、せめて分散会で発表できるようにしようと思います。

豊中中学校　二年　M

初め、部屋は重い沈黙につつまれていた。だれも発表しない。何とかしようと思うが手があがらない。もちろん緊張していた。そして少し恥ずかしかったのだと思う。そのとき、初めに自分のことを語ってくれた人が、「だれも、何も言ってくれないと、僕は不安になります。」と言った。僕は何とかして発表しようと思い、手を上げた。僕は何も考えていなかった。そして何を言ったかもあまりおぼえていない。でも、初めに言ってくれた人は、何か安心したような顔をしてくれた。僕はとてもうれしかった。僕の言いたいことが伝わったことが。

その後、少しずつ発表がふえた。少しずつ心を開いたの

かもしれない。僕は、あまりその後発表しなかったが、その一回の発表は心に残った。
来年、この会にまた出たいと思う。この一回の発表を思いだして。

豊中中学校　二年　T

記念すべき第三回目の部落解放徳島県学習会中学生集会が開催された。昨年もこの会には参加しているので、どういうことをするのかだいたいはわかっていたので、けっこう楽に参加できた。今年は制服で行った。
A・B・C・Dに分けて話し合いをした。意見があまりでなかったのが残念だったけど、自分の意見を言えたのでよかった。ほかの学校は、まじめに考えている人とまじめに考えていない人の差がひどかったのでおどろいた。T君がみんなの前で発表したのにはとても感動した。自分も来年ステージで、自分の意見をみんなに聞かせてやりたい。

部落解放集会 in 徳島　　豊中中学校　二年　T

僕は、一回だけ発表した。初めてだったので少し緊張したが、自分に自信がもてた。少しの事でも部落差別のことを知れば、少しずつでも減っていくと僕は思う。
この「部落解放集会」の経験をもとに精一杯がんばりたいと思っている。

豊中中学校　二年　Y

勉強会の紹介を、今年は成りゆきでやってしまうことになりました。緊張するというほど緊張しなかったというと、うそになると思います。いわゆる「ほどよい緊張感」を感じながら発表できました。発表の時に言ったように、今でも狭山事件については強い怒りを覚えています。
分散会ではなかなか意見がでなかったけど、言ってくれたことには共感できたりしました。
差別はどんなことを言っても、やっぱり心の中にあるものだ。しかし、それを自分自身で認識したり、止めることはできると、そう思いました。
夏休みの日数を使ってまで来た価値は、十分にあったと思いました。

発言できなかった私　　豊中中学校　二年　Y

昨年もこの会に参加して、私は自分で手を挙げて発表す

ることができた。その時、けっこう自分に自信がもてた。今年は昨年よりもたくさんの考えや思いが自分の中にあって、たくさんの意見があって、発表しようとしていたが：：。

グループにわかれて話し合いをしましたが、結局私は発表ができなかった。それは、同じような立場の人間の中で、私のことを話することが、はずかしかったからだ。途中でそういう自分がいやになり、話に集中できなくなった。

そういう中で、Mさんが話をしてくれました。その話はMさんの仕事のことで、ある会社に就職しようとしてりれき書を出した。次の日に採用かどうかを聞きに行った。会社の人は、「前にたのんでいた人が来てくれたから、もうけっこうです」と言った。「部落だから」ということは口には出さなかったが、このことが原因でことわられたことがすぐにわかったそうです。そして、Mさんは心の中で「くそったれ！覚えとけよ！！」と思った。私たちにこういう差別をなくしていける力をつけてほしいと発言してくれた。この話を聞いて私は、「何年かかってもかまわないから差別をなくそう！そして、みんなが平等な社会をつくっていこう！」と実感した。

来年は、中学生として中学生集会に参加するのが最後になるので、来年は自分の意見を自信を持って発言したい。

初めての参加　　豊中中学校　三年　F

僕は、初めてこの会に参加しました。それで一応目標として一回は発表しようと思っていました。

初めに各中学校の代表の二十人の人が発表しました。そして、その次に四人の人が発表しました。で、その中でいちばん印象に残っているのが、大麻中のF君の発表でした。なぜかというと、もう差別なんて全然なくてもいいはずのこの世に、まだ、部落だから、なんだからという時代おくれの子どももいる。しかも、同じ四国内というけっこう身近なところでということだからだった。ほかの人もそういうふうに自分の体験などを言っていた。僕もなんとか発表を一回できたのでよかった。

だけど、自分でも少しつらかった事もあった。同じ中学生であるT君が先生に、「あの子とは遊ばんほうがええ」と言われていた事を実は知らなかったのだ。だから、僕はこれからはもっとほかの人の話を聞いて、今本当はどうなっているのかということを、どんどん知っていきたいと思

う。

豊中中学校　三年　M

ぼくは、初めてこの学習会に行きました。そこでTくんが前にでて作文を読んだことがスゴイと思いました。ほかにもFくんやほかの中学生の人たちも発表していたのでスゴイです。オレには、そんな勇気はありません。

それで、Tくんの文の中で先生が下級生に、「つきあったらいかん、遊んだらいかん」と言ったのを聞いたとき、ぼくは、「なんで遊んだらいかんの」って思った。そしてぼくは、超→腹がたった。オレが先生のそう言われると、先生に「関係ない。いちいちうるさい」って言うと思う。

ぼくは、この集会に出てみんなにいろいろなことをおそわりました。だからうれしかったです。

豊中中学校　三年　S

僕は、この会三回目です。最初から参加しています。その中でも一番印象に残ったのは今回です。それは人数も多かったし、僕と同じ中学校のTがみんなの前で発表していたので、特に印象に残っています。そのTの発表もよかったけど、それに対して他の中学校の人がTの気持ちになって考えたり、その解決方法も話し合ったりしていた。それを聞いた瞬間、僕はすごいなぁ！と思った。それと同時に感激もした。

僕は、今回この大会に参加し、いろいろ学べたし、いい経験になりました。この後いろいろな苦難や悲しいこともあるけど、それに立ち向かっていける勇気と根性をつけていきたい。そのためにも今からは、自分の気持ちを他の人に訴えていきたい。本気で訴えていけば、いつかむくわれる日がくると思うので、むくわれる日まで「差別はしてはいけない」ということを訴えていきたいです。その日までがんばりたいです。応援よろしく。

豊中中学校　三年　T

まず、徳島の会場へ行って思ったことは、こんなにたくさんの仲間がいるんだなとびっくりしました。会を進めてみんなの意見を聞いていくうちに、心強い仲間たちだなぁ、私もがんばらなければいけないなぁと感じた。

私は、自分から進んで発表することはできなかったけど、この日たくさんのことを学べて、行ってよかったなぁと改

めて思いました。この会に参加できてよかったです。

いち　たす　いちは無限大　　豊中中学校　三年　B

私は、初めてこの学習会へ参加した。はっきり言って、参加するのはめんどうであった。心のすみに「何で私が行かないかんの？」という気持ちが、当日、青少年センターに着いたときも、心のすみから消えることは決してなかった。

でも、そんな気持ちはみんなの意見を聞いているうちに、どこかに飛んで行ってしまった。なぜだろうか？私にもよくわからない。でも、心の中で、たしかに何かが芽生えていったのだ。一人ひとりが団結していけば、すごい力になるというのが分かった。「いち　たす　いちは無限大」みなさんはこの意味が分かるだろうか？　「いち　たす　いちはに」必ずしもこの答えにはならない。いち　たす　いち　たす　いち　たす　いち　たす……、どうだろうか。このまま永久に続いていくのならば、どれくらいの数になるのだろうか。想像もできないだろう。

「いち　たす　いち」イコール　人　たす　人なのだ。一人ではできないことも二人ではできるだろう。だから、あそこにいた人たちが団結すれば、かなりの力になるはずだと思う。一人ではできないことも、みんなで団結すれば、どんな困難な事ものり越えられると思います。

豊中中学校　三年　T

ぼくは、作文を読んでいるときは緊張したけど、前を見ているとみんな真剣な顔で、ぼくを見てくれていました。緊張していたけど、がんばって言えました。

後でみんなの意見を聞いていると、みんな励ましてくれたり、応援してくれたりかばってくれました。そのとき胸がいっぱいになって、思わずみんなにありがとうと言えました。

だから、これからは胸をはって暮らしていける世の中にするため、ぼくは一生かかっても、この県からでも差別をなくしていきます。そのために全体学習で、自分の言いたいことや思っていることを言っていきたいです。

大麻中学校　三年　F

僕は、この集会で初めて司会をしました。始めすごく緊張していて、司会という大事な役割をきちんとこなせるか

どうかすごく不安でした。でも、なれてくると、なんだか司会をしていることが楽しくなってきました。そして司会をしていたおかげで、全体会でも発表することができました。もし司会をやっていなかったら、緊張していて、ぜんぜん意見が言えずにじっと座っていただけだったかもしれません。司会ができて本当によかったです。

ただ、全体会で発表できたのが一つか二つぐらいだったからこんなんで満足せずに、もうちょっと意見を言いたかったです。それに全体会で発表していたのが、役員がほとんどだったように思います。もっと役員にならなかった人も、たくさん発表してほしかったです。

この二点のように反省するところもあるけど、なかなかいい集会だったように思います。この集会に参加できて本当によかったと思います。そしてこれからも、この集会での経験をいかして、同和問題に力をいれて、一日でも早く差別のない世の中が来るようにがんばっていきたいと思います。

8／4 in 青少年センター

大麻中学校　K

私はB会場で人権作文を読みましたが、読んでいるときちょっとだけ周りを見たら、みんなが真剣に私の方を見て、作文を聞いていてくれたことがすごくうれしかったです。やっぱり、本当に差別をなくすために一生けん命なんだなーって思いました。来年もがんばって、自主的に参加したいです。

大麻中学校　三年　O

今回は司会をさせてもらって、とてもいい経験になりました。以前までは、人前で発言することも苦手だったんですが、今回の集会で発言できるようになりました。また、二十校もの学校が参加していて、いろんな意見を聞くことができました。意見してくれる内容はさまざまですが、差別に対する怒りや不安をもっていました。同時に、将来差別にあっても負けないという前向きな意見もたくさんでました。

私はまだ差別にあったことはないんですが、高校の先輩の話では、部落差別にあったことがあるそうです。内容は先輩が先輩の友達の親に、「あっちの子」という目で見られているというのです。友達は理解があるそうで、今でもずっと仲良くしているそうです。

このように、差別は身近にあるものなんだなぁと、とても不安になりました。だからこれからも、学習会で差別に負けない力をつけていきたいと思っています。

本当に今回の集会に参加してよかったと思いました。司会をしたり、多くの仲間と話し合ったことで、少し自分が変わったような気がしています。これからもこの経験を生かしていけたらと思っています。

『差別』というもの&自分の気持ち　大麻中　一年　S

部落解放第三回徳島県学習会中学生集会に参加して、みんなが『差別』という身近にあるものを、なくそうと思う気持ちがよく分かりました。私は発表ができなかったけれど、みんなの一言一言に、自分の思いが言えていて、とてもすばらしい中学生集会になったと自分は思います。

「この暑い中、何で行かなあかんの？しんどー。」これは私の本音です。はっきりいってあまりかかわるというか、差別を身近に感じてはいたけど、無神経でした。でも、みんなの発表を聞いていて、「あっ、やっぱり考えなおさなあかんなぁ。」と思うようになりました。「この暑い中：：」などというセリフにさよならします。

『差別』というものは、すぐそばにあるものです。決してなくならないと決めつけてはいけない。だって人間から作り出されたものならば、いつかきっとなくすことができると思うからです。

大麻中学校　三年　F

全体会の中で一番印象にのこったのは、豊中中のT君が発表した中の、学校にいる先生が差別をしているという話で、先生が同和問題学習に関心を持っていない、する気がない、そんな先生が自分のまわりにいたらどうするんだろうと思った。私は、初めは何もできないかもしれない。でも、少しでもいいからその人に心をうちあけてもらえるように、少しのきっかけから始めていけたらなぁと思う。みんなT君の意見に真剣に答えていて、その先生と話し合いが必要だといって、私もやっぱり話し合いっていうのは大事なことだから、そうしたらいいと思う。だからT君にはがんばってほしいです。

私が司会をした分散会では、大人の人の被差別体験の話を聞きました。その人の話では、仲のいい友達の家に行くと、遊ぶのに家の人に聞きに行くと、家の人が誰と聞いて、

「〇〇ちゃん」と言ったら、どこに住んでいる子と聞いて、その地域が部落とわかると、「遊んだらダメ」と言われて、その子の家では遊べなかった。その子とは、本当に心から信頼できる友達にはなれなかったという話でした。私は、今までそういったことはなかったけど、友達になった子に住所を教える時とか、店で住所を書くときに意識をしてしまいます。でも、今はべつに私たちが悪いことをしているわけでもないんだから、自信を持って何ごとでも負けない力をつけたいと思います。

あと、部落地域ではないという人が来ていて、その人たちもまじめに考えてくれていて、自分の体験を話してくれました。親に部落地域の人とつきあうのはいいけど、結婚するのだけはいけないと言われたと言っていました。その人は、反対した父にその怒りをぶつけるのではなく、父をそうした社会に怒りをぶつけなくてはならないと言っていました。

私もこの人のおとうさんは、最初はそんな考えを持っていなかったと思います。何故同じ人なのに地域で決められ、そんな言い方をされなくてはならないのかと思います。結婚は両性がよかったらいいものなのに、何故そこで親が出てくるのか不思議です。まわりの人のことを気にして、本人の気持ちをムシしているのとかわらないと思いました。私は親に反対されるかはわかりませんが、でも、自分の親にはそういう考えを持ってもらいたくありません。もし、まちがったことを言っているとわかったら、その時は何もできないかもしれないけど、そのときは冷静に対処できればと思います。

誰でも差別に苦しめられていると思います。でも、そこでおこったりせず、何故にそういうことをするのか、言葉で人を苦しめたりして罪悪感はないのかと思います。人のいやがることや悲しむことを口にして何も思わないのか、自分がその立場ならどう思うかを考えないのかなぁと思いました。私も障害者に対してイヤだとか思ったことがあったけど、後であの人悲しかったんじゃないのかな、つらかったんじゃないかなと思ったりしました。これからは、どんな人に対しても同じ接し方をし、誰一人も悲しまないような所になればと思います。